

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 実施機関名：聖徳大学大学院教職研究科
	事業名： 聖徳大学教職大学院地域連携研修「未来創造研究会 2025」 主体的に学べる多様な学びプロジェクト
	研修等名：【NITS・聖徳大学教職大学院コラボ研修】 9月6日 架け橋期の子供の力を共に見つめて 10月4日総合的な学習における探究的な学びについて 11月1日 外国にルーツを持つ子どもについて 12月6日 障害のある子どもを持つ保護者の心理について 1月10日 多層指導モデル MIM を用いた特殊音節の指導
	開催日時：令和7年9月6日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：37人 幼・小学校教諭、教育委員会関係者、大学教員、出版関係 開催日時：令和7年10月4日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：22人 幼・小学校教諭、教育委員会関係者、大学教員 開催日時：令和7年11月1日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：34人 幼・小学校教諭、保育士、教育委員会関係者、大学教員 開催日時：令和7年12月6日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：30人 幼・小学校教諭、保育士、教育委員会関係者、大学教員 開催日時：令和8年1月10日 16時～18時 開催場所：オンライン開催 参加人数（総数）と参加者の属性：20人 幼・小学校教諭、保育士、教育委員会関係者、大学教員
目的： 昨年度より NITS・教職大学院コラボ研修「未来創造研究会」を開催しており、本学の院生や修了生のみならず地域の幼稚園・こども園・小・中学校の現職教員と共に学びあう機会となってきた。地域連携研修会として専門性によって対象を限定せずに、教師、保育者が日々の実践や研究の話題提供を行うこととした。 オンラインで開催することにより、幅広い地域からの参加が見込まれ、地域による違いも踏まえた意見交換を行うことが可能となる。また、話題提供者が実践上の成果や気づき、悩みなどを含めて提示することにより、大学院生や現職教員と教育委員会関係者が、お互いの立場で振り返りを行い、意見交換、交流を行う。このような参加者主体の研修を通して、参加者の教育実践の振り返りや今後の在り方を検討し、所属する場の実践への波及につなげていくことを目的とする。	
内容： 「幼児教育」「学校教育」「特別支援教育」に関連するテーマを取り上げて、5回の「未来創造研究会 2025」をオンラインにより開催した。 各回の進め方としては、20～30分程度の話題提供をしていただき、その後に4から5名のグループに分かれてディスカッションのテーマに沿ってグループディスカッションを30分程度行った。最後にグループで話し合ったことを代表者が発表して、全体ディスカッション内容を共有するという流れで行った。 <各回の内容> ○9月6日 東京都公立幼稚園副園長 親泊絵里子先生より「架け橋期の子どもの力をみつめて」と題して話題提供をしていただいた。保幼少接続の取り組みから教職員が理解を深め、関わり合う取り組みが紹介され、保幼小接続の実践における現状と課題について意見交換を行った。 ○10月4日 千葉県柏市小学校教諭 江原大裕先生をお招きして、「総合的な学習における探究的な学びについて」と題して話題提供をしていただいた。総合的な学習における探究的な学びの実践が紹介され、探究的な学びをどのように進めたらよいかについて意見交換を行った。 ○11月1日 私立幼稚園教諭 菅藤拓也先生をお招きして、「外国にルーツを持つ子どもと保護者への支援」と題して話題提供をしていただいた。アンケート調査やインタビュー調査から導き出した結果が報告され、外国にルーツを持つ子どもや保護者に対する具体的な実践について意見交換を行った。 ○12月6日 千葉県千葉市立特別支援学校教諭 石川真沙子先生より「障害のある子どもの保護者の心理について」と題して話題提供をいただいた。障害のある子どもを持つ保護者の心理面を調査研究から明らかにした結果が報告され、学校と保護者の連携の実際と課題について意見交換を行った。 ○1月10日千葉県松戸市小学校教諭 小長光知恵先生より「多層指導モデル MIM を用いた特殊音節の指導」と題して話題提供をしていただいた。児童の特殊音節の実態と具体的な指導方法について報告され、特殊音節の指導の現状と課題について意見交換を行った。	

成果：

○研究会後に参加者へのアンケートを実施した。

9月6日 大変満足 87%、満足 13% 10月4日 大変満足 63% 満足 25% やや満足 13%
11月1日 大変満足 86% 満足 14% 12月6日 大変満足 62% 満足 31% やや満足 8%
1月9日 大変満足 85% 満足 15%

○アンケートの自由記述から、以下に参加者の気づきや今後の実践につながると考えられる記述を抽出した。

- ・橋をかけるということは、それぞれの出発地と到着地を知ることが前提条件だな、と感じました。知るために、相互参観の企画や話し合い、意見交換の場を設定していこうと思います。
- ・今後はこの仕組みを活かして、接続期を過ごす子どもの期待や戸惑いを丁寧に受けとめ幼小で連絡をとりながら、「子どもたちの人生の始まりとして重要な生涯の学びの基礎」幼小の先生が共有し、育ちを理解しあい、子どもの良さや可能性に着目すると授業や保育の改善に役立つと思いました。
- ・子ども達が主体となった探究を進めていく上で、学校における総合的な学習の時間や行事などのカリキュラムの固定化という障壁があることを、先生方の話から改めて認識し、それらを乗り越える方策について考え、現場で共有していく必要性を感じました。
- ・保護者の不安に寄り添う支援、「先が見えない」不安が大きいと感じた。校内で進路についての掲示や紹介、実際に学級の様子を見てもらえる窓口の広さ、などを行っていただけるとよいと感じた。
- ・一つの行動でも文化の違いで危機感が大きく異なることがあり、その危機感の度合いを理解することで信頼を得られると学んだ。細かなニュアンスを理解することは難しいが、コミュニケーションを通して歩み寄っていくことが大切だと学んだ。

「NITSからの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

本事業では参加者を主語にした研修として、研修方法にグループディスカッションを取り入れ、多様な学校種、立場の教員と一緒に共通の話題提供について学ぶことで、気づきや変化が深まることを期待した。

① 研修観の転換を図る研修による気づきの深まり

話題提供以上にグループディスカッションを重視する研究会の構成にすることにより、多様な参加者の意見や考えを聞くことができ、気づきの深まりにつながった。アンケート自由記述では「様々な立場の方とのディスカッションの中で、互いの立場を理解した上で進めていくことが子どもの可能性を広げていけるきっかけになることと痛感しました。」という記載にみられるように、参加者自身が話題提供に対して主体的に意見を伝え、多様な立場の方とディスカッションすることの重要性に気が付かれていった。

② 自己の在り方や今後の気づきの醸成

自由記述を分類した結果、「話題提供に対して学ぶことができた」「自身の実践してきたことを振り返る」「話題提供に関して今後行っていく方向に気づく」「ディスカッションを通して異なる立場を理解する」といった内容に分類できた。従来の聴講するだけの研修では「学ぶことができた」という感想がほとんどであったが、ディスカッションによって自身の実践の振り返りや、今後の実践について考えを深めていくといった、豊かな気づきが醸成されたと考える。

アイデアや工夫したこと：

① 広報の工夫：HPに掲載するほか、研究会の実施として、これまで参加していた〈HP掲載、配布したチラシ〉方や修了生、卒業生へメールで配信し、地域の教育委員会、学校へチラシの送付により参加者を募った。

② オンライン開催：オンラインでの開催としたことにより、県内や関東地域はもとより、県外（新潟県、長野県、京都府、静岡県、島根県）から参加者があり、話題提供について意見交換を行うことができた。また、現職教員だけでなく、地域の教育委員会関係者の方々にも多く参加をいただくことにつながった。

③ 話題提供内容：話題提供は、大学院修了者の課題研究での成果や地域の教育課題から検討され、かつ多様な参加者がともに話し合える内容を設定し、話題提供者を検討した。具体的な研究の成果を発表することや実践報告を中心としたことから、多くの参加者が自主的に学びたいと参加され、ディスカッションへの積極的な参加につながった。

④ 開催方法の工夫：話題提供は 20～30 分程度の短い時間で行ってもらい、その後のグループディスカッションに時間をかけ、最後に発表して共有する構成とした。グループは、4、5名とすることにより、意見を伝えあう時間が多くなり、深い学びにつながったと考えられる。



NITS・聖徳大学教職大学院コラボ研修
未来創造研究会2025 第6回
～地域連携 多様な学びプロジェクト～
1月10日(土) オンライン型
16:30 - 18:00 参加無料
【テーマ・話題提供者】
多層指導モデルMIMを用いた
特殊音節の指導
松戸市立小学校 教諭 小長光知恵先生
プログラム
16:30 話題提供・質疑応答
17:00 グループディスカッション
17:30 横断的アンケート
参加申し込みはこちらのQRコードより
聖徳大学教職大学院 (教職研究科)